

来館者を対象とした意識調査

▶ 調査方法

来館者に対する面接聞き取り調査(退館時)

▶ 調査対象

小学生高学年以上(10歳以上)の男女

▶ 調査期間

2016年10月22日(土)・23日(日)・11月19日(土)・20日(日) (計4日間)

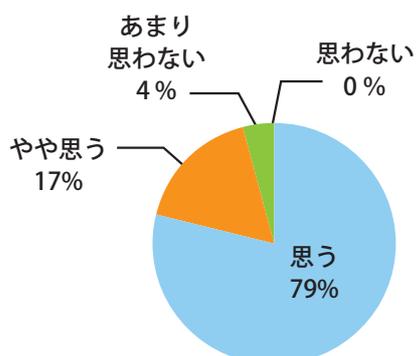
▶ 回収数(有効回答)

505票

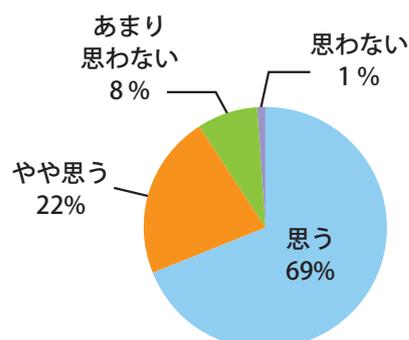
【年代】10代：89人、20代：128人、30代：108人、40代：111人、50代：36人、60代以上：22人

▶ 調査結果(抜粋)

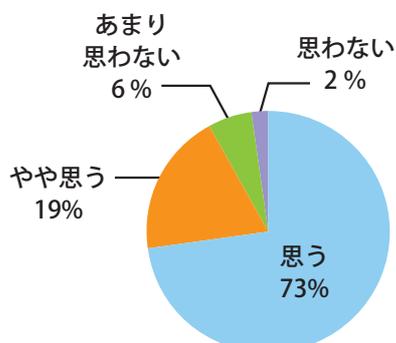
Q. [総合評価] 展示やプログラムは(全体として)良い



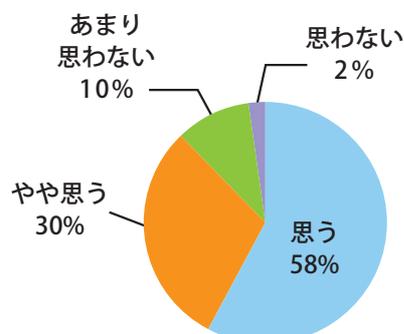
Q. [紹介意向] 展示やプログラムを人にすすめたい



Q. [リピート意向] 展示やプログラムにまた参加したい



Q. [科学への興味喚起] 展示やプログラムにより、科学への興味が高まった



事業評価

日本科学未来館の運営や各種活動に関する目標と年度計画は、国立研究開発法人科学技術振興機構の中期計画に基づいて策定しています。年度計画の達成状況は、「運営評価委員会」が評価をし、同時に改善提案を審議します。その改善提案は、日本科学未来館の事業運営に反映させます。また、評価結果は「総合監修委員会」にも報告します。「総合監修委員会」では、今後の展示や活動の計画、運営方針などについて審議・監修が行われます。どちらの委員会も以下に示すように外部の有識者で構成されています。

▶ 運営評価委員会

2016年度の活動内容・実績について審議が行われ、総合評価「S」（計画通り履行した上で、日本科学未来館の基本理念等に資する新たな取組みに着手し、かつ特に優れた実績を上げている。）が得られました。

開催日：2017年2月9日(木)

委員（所属・役職は当時）：

- 委員長 赤堀 侃司（一般社団法人日本教育情報化振興会 会長）
- 委員 大月ヒロ子（有限会社アイデア 代表取締役）
- 染川 香澄（ハンズ・オン プランニング 代表）
- 中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館 館長）
- 本吉 洋一（国立極地研究所 極域科学資源センター センター長）
- 森 俊哉（あずさ監査法人 専務理事）
- 渡部 潤一（国立天文台 副台長）

▶ 総合監修委員会

2016年度は今後の展示開発や科学コミュニケーション活動の計画などについて審議が行われるとともに、運営評価委員会の評価結果が了承されました。

開催日：2017年3月24日(金)

委員（所属・役職は当時）：

- 委員長 榊 裕之（豊田工業大学 学長）
- 委員 青野 由利（毎日新聞 論説委員）
- 海野 正（日本公認会計士協会 専務理事）
- 太田 英昭（産経新聞社 代表取締役会長）
- 佐々木かをり（株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長）
- 高柳 雄一（多摩六都科学館 館長）
- 立花 隆（ジャーナリスト）
- 中村 桂子（JT生命誌研究館 館長）
- 早川 茂（トヨタ自動車株式会社 取締役・専務役員）
- 林 良博（国立科学博物館 館長）
- 村井 純（慶応義塾大学 環境情報学部 学部長）
- 室伏きみ子（お茶の水女子大学 学長）

（敬称略）